

ALINCO

HF ALL MODE TRANSCEIVER

DX-SR8J

クイックマニュアル

本資料に使われている社名、商標、登録商標はそれぞれの所有者に帰属するものです。定格、仕様は予告なく変更する
事があります。

All band names and trademarks are the property of their respective owners. Information and specifications are subject to
change without notice. Copyright 1998 All rights reserved. No part of this document may be reproduced, copied, translated,
or transcribed in any form or by any means without the prior written permission of Alinco, Inc. Osaka, Japan.
Japanese Edition Printed in Japan.

 **アルインコ株式会社** 電子事業部

東京営業所 〒103-0027 東京都中央区日本橋2丁目3番21号 八重洲セントラルビル4階 TEL.03-3278-5888
大阪営業所 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4丁目4番9号 淀屋橋ダイビル13階 TEL.06-7636-2361
福岡営業所 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1丁目3番6号 第3博多備成ビル7階 TEL.092-473-8034

アフターサービスに関するお問い合わせは

お買い上げの販売店または、フリーダイヤル ☎ 0120-464-007

全国どこからでも無料で、サービス窓口につながります。

受付時間/10:00~17:00月曜~金曜(祝祭日及び12:00~13:00は除きます)

ホームページ <http://www.alinco.co.jp/> 「電子事業」をご覧ください。

PS0617

この度はアルインコのトランシーバーをお買い上げいただき誠にありがとうございます。

このマニュアルは、英文取扱説明書の抜粋の翻訳と無線局免許の申請の際の注意事項を記載
したものです。詳細については英文取扱説明書をお読みください。

本機は日本国内専用モデルですので海外では使用できません。



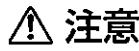
この無線機を使用するには、総務省のアマチュア無線局の免許が必要です。また、アマチュ
ア無線以外の通信には使用できません。

 **アルインコ株式会社**

安全上のご注意

この説明書では、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。本文中のマークの意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。




[表示の説明]

表示	表示の意味
 危険	“誤った取扱いをすると人が死亡する、または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定されること”を示します。
 警告	“誤った取扱いをすると人が死亡する、または重傷を負う可能性があること”を示します。
 注意	“誤った取扱いをすると人が傷害※1を負う可能性、または物的損害※2のみが発生する可能性があること”を示します。

※1：傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど・感電などをさします。

※2：物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害をさします。

[図記号の説明]

図記号	図記号の意味
	禁止（してはいけないこと）を示します。 具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示します。
	必ず実行していただく「強制」内容です。 具体的な強制内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示します。
	電源プラグを必ずコンセントから抜いていただく「強制」内容です。 具体的な強制内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示します。

本製品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電などの外部要因にて通信などの機会を失ったために生じた損害などの純粋経済損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

アフターサービスについて

■保証書

保証書には必ず所定事項（ご購入店名、ご購入日）の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。

■保証期間

お買い上げの日より1年間です。

正常な使用状態で上記の期間中に万一の故障が生じた場合は、お手数ですが製品に保証書を添えて、お買い上げの販売店または当社サービス窓口にご相談ください。

保証書の規定にしたがって修理いたします。

■保証期間が経過した場合

お買い上げの販売店または当社サービス窓口にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料で修理いたします。

アフターサービスについて、ご不明な点はお買い上げの販売店または当社サービス窓口にご相談ください。

■製造中止製品に対する保守年限に関して

製造中止製品に関しては、下記の一定期間保守部品を常備しております。しかし、不測の事態により在庫が無くなる場合もあり、修理が行えないこともありますのでご了承ください。

* 補修用部品の保証期間は、製造中止後5年です。

[50W申請用]

TSS株式会社

担当者 殿

アルインコ製、DX-SR8J型トランシーバーを50[W]に改造して保証認定を受けたいので、この書類を添えて出願します。

出願者氏名 印

住所

1. 50Wへの改造方法

CPU 50W切り換え用ランド(I)を半田ジャンパーする事により送信出力を50[W]とした。

2. 各バンドの送信出力の測定結果 電源電圧 13.8[V]にて

上記 1. による改造後に測定した送信電力を下表に示します。

測定方法：○○○○○社製 通過電力計にダミー・ロードを接続して測定。

周波数帯 [MHz]	送信出力 [W]	周波数帯 [MHz]	送信出力 [W]
1.9		14	
3.5		18	
3.8		21	
4.63		24	
7		28	
10			

※資格により申請出来ない周波数がございますので、ご注意ください。

以上、内容に誤りの無い事を証明します。

申請者 _____ 印

無線機の取扱いについて

⚠ 危険



危険

●DC電源コード接続の際は、極性を間違えないように十分注意してください。

火災・感電・故障の原因となります。赤の配線はプラス(+)極、黒の配線はマイナス(-)極です。



禁止

●この製品の電源電圧はDC13.8 Vです。

DC13.8 V±15%を超えるDC電源や大型車などのDC24Vには接続しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



強制

●送信時には大きな電流が流れますので、必ず付属の電源ケーブルを使ってください。

火災・感電・故障の原因となります。



強制

●もし、内部からもれた液が皮膚や衣服に付いたときは、すぐにきれいな水で洗い流すこと。

そのままにしておくと、皮膚がかぶれる原因となります。



強制

●内部からもれた液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること。

そのままにしておくと、目に傷害が起きることがあります。

⚠ 警告



分解禁止

●分解・改造・修理しないこと。

取扱説明書に記載されている場合を除き、ケースなどを外し、内部にふれることはさけてください。

火災・感電・けがの原因となります。(改造は電波法違反になります。)



水場での使用禁止

●屋外や浴室など、水のかかる場所に置かないこと。

水などをかけないこと。



水場での使用禁止

●周りにコップや花瓶など、液体の入った容器を置かないこと。

液体がこぼれて内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

●水がかかった場合、電源プラグをコンセントから抜いてください。

●また、湿気が多い場所では使用しないでください。

湿度の高い所や、冷たい所から急に温かい所へ移動しますと、製品に露がつく場合があります。露がつくと製品の動作に悪影響を与え、故障の原因となりますので、よく乾燥させ、露をよく取り除いてからご使用ください。



禁止

●航空機内や病院などで使用を禁止された場所では、電源を入れないこと。

電子機器に影響を及ぼす場合があります。

※ 整理番号		無線機		規格出力 (W)	
装置の区別	変更の種別	技術基準適合証明番号	発射可能な電波の型式及び周波数の範囲	変調方式	名称・周波数
第1	送信機 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去		A1A 1.9MHz, 4.63MHz, 10MHz A1A, A3E, J3E 3.5MHz, 3.8MHz, 7MHz, 14MHz, 18MHz, 24MHz A1A, A3E, J3E, F3E 28MHz	平衡変調 低電力変調 V/F/F/F/変調	RD100HF1X2 13.8 V
第	送信機 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去				V
第	送信機 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去				V
第	送信機 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去				V
第	送信機 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去				V
第	送信機 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去				V
第	送信機 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去				V
第	送信機 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去				V
第	送信機 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去				V
第	送信機 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去				V
送信空中線の型式			周波数測定装置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (誤差0.025%以内) <input type="checkbox"/> 無	
添付図面		<input checked="" type="checkbox"/> 送信機系統図	その他の工事設計	<input checked="" type="checkbox"/> 法第3章に規定する条件に合致する。	

16 工事設計書

欄変更

⚠ 注意



禁止

●幼児の手の届くところには置かないこと。
けがなど事故の原因となります。



禁止

●磁気カードなどを近づけないこと。
無線機に内蔵されている磁石や磁気を帯びた部品で、フロッピーディスクやキャッシュカードなどの内容が消去される場合があります。



禁止

●湿気やほこりの多いところ、また高温となるところに保管しないこと。



禁止

●直射日光の強い所や炎天下の車の中などに長時間放置しないこと。
発熱・発火・故障の原因となります。
プラスチックやビニールなどが多用されるマイクなどのアクセサリも熱や日光で劣化しますので注意してください。



禁止

●電子機器に影響を与える場合は使用しないこと。
自動車内で使用した場合、車種によりまれに車両電子機器に影響を与える場合があります。そのような場合は使用しないでください。
チューナー・テレビなど、他の機器に影響を与えるようなときは、距離を離して設置してください。



禁止

●濡らさないこと。
水などの液体が入ると発熱・感電・故障などの原因になります。使用場所、取扱いにご注意ください。



禁止

●普通のゴミと一緒に捨てないこと。
発火・環境破壊の原因となります。



禁止

●オプションの組み込みでケースを開ける場合は、取扱説明書をよくお読みになり行ってください。その際、指定以外の場所には絶対に触れないでください。
火災・感電・故障の原因となります。

注意



強制

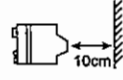
- アンテナ端子には50Ω系の同軸ケーブルを使用して、50Ωのアンテナを接続してください。

同軸ケーブルやアンテナのインピーダンスが異なっていたり、アンテナの調整が不完全なときには、他の電子機器の動作に影響を与える原因となります。



強制

- 放熱をよくするため、壁から10cmくらい離してください。



禁止

- 車載用としてご使用する場合、DC電源コードを車のバッテリー端子に直接接続してください。シガーライターソケットへは接続しないでください。

シガーライターソケットは取り出せる電流容量が小さいため、この製品の電源としては不適切です。



危険

- 雷に対する保護はなされていません。雷が接近している時や、発生が予想される時は屋外につながるアンテナケーブルや電源コードを無線機から外してください。

雷は直撃以外にもこれらのケーブルに高い電圧がかかり故障を起こす原因となります。



注意

- 隣接して駐車した自動車の間で交信など、極端にアンテナ間の距離が近い場合、高出力で送信すると相手局の無線機に悪影響を及ぼすことがあります。

極端に近い距離に交信相手がいる時は、お互いにローパワーに切り換えて交信する事をおすすめします。

無線局事項書及び工事設計書

1 申請(届出)の区分		<input type="checkbox"/> 開設 <input type="checkbox"/> 変更 <input type="checkbox"/> 再免許		2 免許の番号	3 呼出符号	4 欠格事由	5 整理番号	
氏名又は名称		フリガナ	個人又は代表者名		6 工事落成の予定期日	7 希望する免許の有効期間		8 無線従事者免許証の番号
住所		都道府県-市区町村コード	都道府県-市区町村コード	国籍	9 無線局の目的	10 通称事項		11 無線設備の設置場所又は常置場所
フリガナ		フリガナ		フリガナ		フリガナ		12 移動範囲
郵便番号		電話番号		希望する周波数帯		希望する周波数帯		空中線電力
無線設備の設置場所又は常置場所		都道府県-市区町村コード		希望する周波数帯		希望する周波数帯		空中線電力
13 電波の型式並びに希望する周波数及び空中線電力		希望する周波数帯		希望する周波数帯		希望する周波数帯		空中線電力
14 変更する欄の番号		希望する周波数帯		希望する周波数帯		希望する周波数帯		空中線電力
15 備考		移動する局の場合は、「工事設計書」の免許を受けようとする送信機のすべての台数		移動する局の場合は、「工事設計書」の免許を受けようとする送信機のすべての台数		移動する局の場合は、「工事設計書」の免許を受けようとする送信機のすべての台数		現在アマチュア局を開局しているときは、その免許番号及び呼出符号 免許番号: 個人第_____号 呼出符号: _____。 過去にアマチュア局を開局していた場合は、廃止又は失効の日から6ヶ月を経過していないときは、その呼出符号 呼出符号: _____。

私は、アマチュア局の免許申請に係る保証を受けたいので、別紙の書類を添えて申し込みます。

住所 社団の場合は 事務所の所在地		〒		申 込 の 日		年 月 日	
氏名 社団の場合は 代表者の氏名		④ 社団の名称 社団の場合に限る		電 話 番 号		F A X 番 号	
送信機番号		送信機の名称等		E メールアドレス		保証料の払込みにかかる証明書の貼付欄	
第 1 送信機		DX-SR8J		所属装置の有無 (有る場合のみ印)		・専用の払込用紙で払い込まれたときは、 受付証明書(払込用紙右端部)をお貼り 下さい。 ・汎用の払込用紙で払い込まれたときは、 受領証の原本をお貼り下さい。 ・銀行口座に払い込まれた際は、取扱票の 原本をお貼り下さい。 ・ATMで払い込まれたときは、取扱票の 原本をお貼り下さい。 ・インターネット利用で払い込まれたとき は、確認画面のハードコピーを添付して ください。	
第 2 送信機				<input type="checkbox"/> 有			
第 3 送信機				<input type="checkbox"/> 有			
第 4 送信機				<input type="checkbox"/> 有			
第 5 送信機				<input type="checkbox"/> 有			
第 6 送信機				<input type="checkbox"/> 有			
第 7 送信機				<input type="checkbox"/> 有			
第 8 送信機				<input type="checkbox"/> 有			
第 9 送信機				<input type="checkbox"/> 有			
第 10 送信機				<input type="checkbox"/> 有			
その他の事項		電波法第3章に規定された条件に合致していません。					
遵守事項		1 私は、無線設備が電波法第3章の技術基準に適合するよう、維持します。 2 私は、貴社から送付される放送受信障害、安全施設及び業務書類等の調査報告書を、免許後すみやかに提出します。 3 私は、会社が行う管理の適正化及び正常な運用の確保のための調査に協力します。					
参考事項		1 設備共用(設備を共用して同時に保証を申し込む者の氏名) 2 その他参考となる事項					

ご使用の前に

ご使用上の注意

- ・ケースを外して内部に手を触れないでください。
故障の原因になります。
- ・直射日光の当たる場所、ほこりの多い所、暖房器具の近くなどでのご使用、および保管は
しないでください。
- ・カーナビ、カーテレビなど他の機器に影響を与える場合には距離を離してご使用ください。
- ・アンテナは完全に取り付けてお使いください。
- ・ハイパワーで長時間送信し続けると、機器が過熱します。
お取り扱いには十分注意してください。
- ・万一、煙が出たり、異臭がする場合は、電源スイッチをす
みやかに切ってください。
安全を確かめた上で販売店、または最寄りの当社サービス
窓口へご連絡ください。



電波の発射前に

ハムバンドの近くでは、多くの業務用無線局が運用されています。これら無線局近くでの電波発信には気を付けてください。

アマチュア無線局が電波法令を遵守していても、思わぬ電波障害が起こることがあります。移動運用の際には、十分にご配慮をお願いいたします。

使用禁止

主に次のような場所での運用は、原則として禁じられています。運用が必要な場合は各管理者の承認を得てください。

- ・航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、業務用無線局周域、および、それらの中継局周辺など。

電波法上の注意

電波法第59条は「何人も法律に別段の定めがある場合を除くほか、特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受してその存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない。」とし、第109条で「無線局の取扱い中に係わる無線通信の秘密を漏らし、又は窃用した者は、1年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処する。」と罰則規定を設けております。更に第109条の2で「暗号（秘話）通信を受信した者が、その暗号通信の秘密を漏らし、又は窃用する目的で、その内容を復元（秘話解除）したときは、1年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処する。」と定めておりますので、放送以外の無線通信を傍受される場合は電波法違反とならないよう十分ご注意ください。

本機はアマチュア無線機です。送信するには第2級以上のアマチュア無線技士資格とアマチュア無線局免許が必要です。

安定化電源

- ・本機に接続する外部電源は、必ず出力電圧が11.7V～15.8Vの範囲内でのものを使用してください。
- ・電源ケーブルの抜き差しは、必ず本体の電源をOFFにしてから行ってください。

5. 申請の仕方

本機は技適証明機ではありませんので、無線局の申請に当たっては保証認定で申請を行う必要があります。（技適機種と合わせて申請する場合も保証認定になります。）

保証認定申請時に記載が必要な書類

- ・保証認定願
- ・工事設計書
- ・送信機系統図

別紙記載例ではDX-SR8Jを第1送信機として記載しております。

①保証認定願

DX-SR8J以外の送信機とあわせて申請される場合は、「使用するトランシーバー」の第2送信機以降にその機種を記載してください。

②工事設計書

「発射可能な電波の型式及び周波数の範囲」、「変調方式」、「定格出力」、「終段管」の欄に記載が必要です。「技術基準適合証明番号」は記載しません。

第2送信機以降を申請される場合は、同様に記載してください。技適証明機種の場合は、「技術基準適合証明番号」のみの記載でかまいません。

③送信機系統図

別紙送信機系統図を記載してください。

【注意】

本機は100W機になりますので、そのままでは、第3級アマチュア無線技士による免許申請・移動局としての免許申請はできません。その場合は、内部のIのジャンパーランドを半田ブリッジしてから申請してください。あわせて、工事設計書の「定格出力」欄には、50Wと記載してください。

尚、改造した後は[50W申請用]の書式と改造個所の写真を添えて提出してください。困難な時はJAIA加盟店が改造と証明を有償で行なわれる場合がありますのでご相談ください。

弊社サービスセンターでも有償で改造と証明書発行のサービスをご提供しております。

③受信部

回路構成	ダブルスーパーヘテロダイン
周波数範囲	0.135MHz~30.0000MHz
受信感度 SSB, CW(S/N 10dB)	0.135~1.8MHz :0dBuV(1uV)
	1.8~30MHz :−12dBuV(0.25uV)
	AM(1kHz, 30% 変調)
	0.135~1.8MHz :20dBuV(10uV)
FM(12dB SINAD)	1.8~30MHz :6dBuV(2uV)
	28~30MHz :−6dBuV(0.25uV)
選択度 SSB, CW, AM(Narrow)	2.7kHz(−6dB), 4.7kHz(−60dB)
	AM, FM
スプリアス妨害比	70dB以上
低周波出力	2W以上 (8Ω, 10% THD)
RIT範囲	±1.2kHz

安全上のご注意 2

無線機の取扱について 3

ご使用前に 7

1. 各部の名称 10

①前面パネル →P18 10

②背面パネル →P21 10

③表示 →P23 10

④キー操作早見表 →P24 11

2. 主な機能 13

①用語説明 13

②モードの切り替え →P26 13

③バンドの切り替え →P26 13

④よりよい受信をするには →P31 13

⑤クローン機能 →P69 13

3. その他 14

①主な接続 14

②オプションの取り付け方 14

③調整個所 14

4. 定格 15

①一般 15

②送信部 15

③受信部 16

5. 申請の仕方 17

アフターサービスについて 23

→P18は英文取説のP18ページに詳細があることを意味します。

1.各部の名称

①前面パネル →P18

- | | |
|----------------------------|---------------------|
| (1) POWER switch | 電源スイッチ |
| (13) MAIN tuning dial | メインダイヤル |
| (14) RIT control knob | 受信周波数微調整つまみ |
| (15) IF SHIFT control knob | IFフィルターをシフトして混信除去する |
| (16) SQL control knob | スケルチつまみ |
| (17) AF gain control knob | 音量ボリューム |
| (18) PHONE jack | ヘッドホン端子 |
| (19) SPEAKER jack | 外部スピーカー端子 |

その他のキー操作については次ページをご覧ください。

②背面パネル →P21

- | | |
|---------------------|------------------------------|
| (1) ANTENNA | アンテナ端子 |
| (2) RELAY | リニアアンプ用リレー端子 |
| (3) External ALC | リニアアンプ用ALC入力端子 |
| (4) CW-KEY jack | 電鍵接続端子 |
| (5) ACC | オートアンテナチューナー (EDX-2)用アクセサリ端子 |
| (6) Power connector | 電源ケーブル接続端子 |
| (7) GND | グラウンド接続端子 |

③表示 →P23

- | | |
|-----------|------------------------------------|
| (3) TUNE | オートアンテナチューナーが整合動作中に表示されます。 |
| (4) SPLIT | スプリット運用中に表示されます。 |
| (13) LOW | ローパワー送信時に表示されます。 |
| (14) NB | ノイズブランカー動作中に表示されます。 |
| (15) Nar | ナローフィルター使用中に表示されます。(SSB、CW、AMモード時) |
| (16) T | トーンエンコーダーが有効なときに表示されます。(FMモード時) |

4.定格

①一般

変調方式	J3E(LSB,USB), A3E(AM), A1A(CW), F3E(FM)
メモリーチャンネル数	600チャンネル
アンテナ インピーダンス	50Ω
電源	DC13.8V ±15%
アース	—接地
電流消費	受信時 最大1.0A・送信時 最大20A
動作温度範囲	-10℃~+60℃
周波数安定度	±1ppm
寸法 (突起部除く)	240(w)×94(h)×255(d)mm
重量	約4.1kg

②送信部

周波数範囲	1.8100~1.9125MHz 3.5000~3.8050MHz 4.6300MHz 7.0000~7.2000MHz 10.1000~10.1500MHz 14.0000~14.3500MHz 18.0680~18.1680MHz 21.0000~21.4500MHz 24.8900~24.9900MHz 28.0000~29.7000MHz
送信出力 Hi/Low/S-Low	(SSB, CW, FM) 100W/10W/約1W (AM) 40W/4W/約0.4W
不要輻射	-50dB以下 (10MHz帯では-45dB以下)
変調方式	SSB, CW : 平衡変調 AM : 低電力変調 FM : リアクタンス変調
搬送波抑圧	40dB以上
波側帯抑圧	50dB以上 (1kHz)
FM最大周波数偏移	±2.5kHz
マイクインピーダンス	300Ω

3. その他

①主な接続

- ・付属の電源ケーブルを背面の電源端子に接続し、DC13.8V電流容量30Aの定電圧電源につなぎます [赤+、黒-(接地)]。
- ・マイクは前面パネル左下のマイク端子に接続してください。 →P20
- ・CWで運用の際は電鍵をKEY端子に差し込んでください。 →P21
- ・ヒューズは30Aです。 →P86
- ・アンテナケーブルはアンテナ端子へつないでください。 →P21

②オプションの取り付け方

詳細は英文説明書の以下のページをご参照ください。

オートアンテナチューナー EDX-2 →P90

フロントコントロールキット EDS-17 →P90

③調整箇所

英文説明書の以下のページをご参照ください。

カバーの外し方 →P84

マイクゲイン →P85 (VR117)

送信出力100Wと50W →P85 (Iのジャンパーランド)

サイドトーン音量 →P85 (VR111)

ビーブ音量 →P85 (VR109)

④キー操作早見表 →P24

(押さえ時間 1秒以内=● 1秒以上=○)

	単 独 操 作	FUNC 点灯中操作
FUNC	●ファンクション機能に入ります ○セットモードに入ります	
V/M	●VFO MODEへの切り換え ○VFO A/B イコール機能	●メモリーバンクの切り換え ○メモリーの書き込み
M/KHz	●MHz、KHz カーソル位置の切り換え	●AGCの切り換え
MODE	●モードの切り換え ○モード UP,DOWN操作可能	●UT/LTの切り換え
RF	●RF ゲインの切り換え ○送信周波数のモニター	●フィルターの切り換え
LOCK	●ダイヤルの操作禁止	●キー及びダイヤルの操作禁止
MULTI	●マルチファンクション機能	●マルチファンクションキー割り当て設定
▲	●MHz、KHz バンド、メモリーのUP	
▼	●MHz、KHz バンド、メモリーのDOWN	
RIT	●TXIT,RITのON/OFF	●TXIT,RITの加算機能
1	●1.9MHz帯呼び出し及び周波数入力1	●VFO A/B切り替え、MEMO □/A/B切り替え
2	●3.5MHz帯呼び出し及び周波数入力2	●メモリー→VFO転送機能
3	●4.6MHz帯呼び出し及び周波数入力3	●メモリークリアー
4	●7MHz帯呼び出し及び周波数入力4	●トーンのON/OFF
5	●10MHz帯呼び出し及び周波数入力5	●スプリット機能ON/OFF
6	●14MHz帯呼び出し及び周波数入力6	●プライオリティ機能ON/OFF
7	●18MHz帯呼び出し及び周波数入力7	●クイックオフセット機能
8	●21MHz帯呼び出し及び周波数入力8	●スキャンタイプの選択、スキャンスタート
9	●24MHz帯呼び出し及び周波数入力9	●ノイズブランカーのON/OFF
0	●28MHz帯呼び出し及び周波数入力0	●送信出力の切り換え
.	●周波数入力デシマル	●アンテナチューナー整合動作スタート
ENT	●周波数入力確定	●アルニュー設定

セットモードの設定

→P70

メニュー	初期設定	機能
00	SSB-0.1	▲/▼キーのモード別周波数ステップの設定
	AM-1.0	
	FM-2.5	
01	PROT-OFF	メモリー上書き禁止の設定
02	ACCS-ON	メモリー周波数の一時変更禁止設定
03	SC-2S	タイマースキャンの時間設定
04	B-SCAN	スキャンタイプの設定
05	SSC-50	サーチスキャンの周波数帯域設定
06	SKIP	メモリースキャンのスキップ設定
07	DIMR-32	照明の輝度設定
08	BEEP-ON	ビーブ音のON/OFF
09	U/L-ON	USB/LSB自動切り換えのON/OFF
10	AGC-ON	AGC自動切り換えのON/OFF
11	TXIT-ON	TXITのON/OFF
12	EKEY-ON	エレキーのON/OFF
13	WPM-20	エレキースピードの設定
14	PADDL-N	エレキーリバースの設定
15	ST-800	サイドトーン周波数の設定
16	BKIN-AT	CWブレイクインの設定
17	RAT-3.0	エレキーレシオの設定
18	T-88.5	トーン周波数の設定
19	SPH-OFF	スピーチコンプレッサーのON/OFF
20	PTT.L-OFF	PTTロックのON/OFF
21	APO-OFF	オートパワーオフの時間設定
22	UD-RPT	▲/▼キー長押しの設定
23	FUNC-MN	FUNCキーの設定

※本ページと英文説明書P.95の操作キー / 機能対象表をコピーして切り抜いて、運用時に参照すると便利です。

[セットモードの操作]

- 1) [FUNC]キーを1秒以上押すと上記の様な文字が表示されセットモードに入ります。
- 2) [▲/▼]又はマイクの[UP/DOWN]キーを押してメニューを選択します。
- 3) メインダイヤルを回して設定値を選びます。ON/OFFしか選べないものはメインダイヤルを時計 / 反時計方向に回して切り換えます。
- 4) 別の項目を設定する時は2~3を繰り返す、設定を反映させて運用モードに戻る時は[▲/▼] [UP/DOWN]以外のキーを押します。

2. 主な機能

①用語説明

- ・クイックオフセット
SPLIT状態でFUNCキーを押した後7キーを押すと表示が0.0000になり、そのままダイヤルを回すと送受信の周波数差が表示され、素早くスプリットの設定ができます。
- ・カーソル
周波数の上に表示される小さい▼マークのことです。
- ・プライオリティー
メモリーモードで行なうとメモリー5秒、VFO0.5秒の割合で、VFOモードで行なうとVFO5秒、メモリー0.5秒の割合で、それぞれスキャンします。
- ・プログラムスキャン
メモリーナンバーP1とP2に設定した周波数の間をスキャンします。VFO A/Bそれぞれに1ペア使えます。
- ・CWブレイクイン
CW運用時、電鍵ONで自動的に送信し、OFF後に自動的に受信に戻る機能のことです。

②モードの切り替え →P26

MODEキーを押す毎に、USB, LSB, AM, FM, CWL, CWUからモードを選ぶ事ができます。

③バンドの切り替え →P26

M/KHzキーを押して、▼マークをMHz位置の上で点滅するように合わせます。その後UP/DOWNキーを押す事で、バンド単位のアップダウンができます。

④よりよい受信をするには →P31

RFキーを押す事で、+10dB~20dBで10dB単位でRFゲインを調整できます。

⑤クローン機能 →P69

DX-SR8J (親機) の各種設定やメモリー内容等の状態を別のDX-SR8J (子機) にコピーする事ができます。これには両端に3.5φのステレオプラグがついた3芯ケーブルが必要です。

[手順]

- 1) 3芯ケーブルのプラグを親機と子機のSP端子に挿入します。
- 2) 親機のみMODEキーを押しながら電源をONにするとクローンモードに入ります。
- 3) 親機のPTTを押します。表示がSD番号となり、データの送出と共に数字が大きくなります。子機側の表示はLD番号です。
- 4) クローンが成功したら両機の表示はGoodとなります。失敗ですとErrorが表示されますので接続を再確認して最初からやり直してください。
クローンモードから抜け出すには電源を再度投入してください。